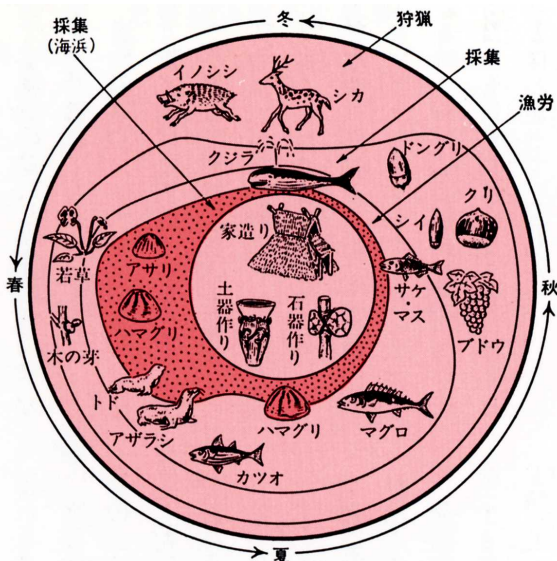




左 国分寺市多喜窪遺跡 勝坂式縄文式土器（国指定重要文化財）

右 東大和市八幡谷戸遺跡（奈良橋八幡神社南）から発見された大量の打製石器



縄文人の生活カレンダー（図は小林達雄氏の原案による）

### 縄文人の生活カレンダー

狩猟採集、移動を中心とする縄文時代観から、最近では、縄文稲作の研究が進むほど、縄文人の生活に対する認識は変化しています。

東村山市の下宅部遺跡は縄文晩期の遺跡ですが

直径40センチもあろうかと思われる木材が加工されて、トチやクルミの実の灰汁抜きをした食料加工場があります。精巧な模様の土器。

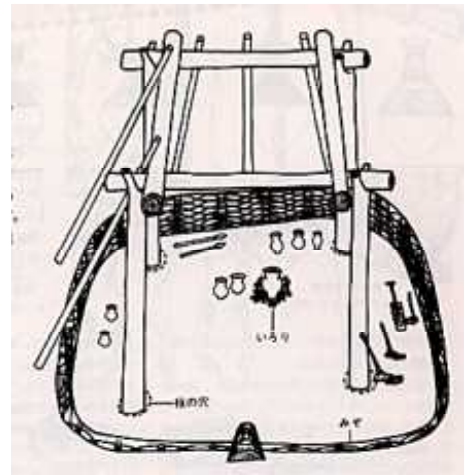


### 稲作の時代（弥生時代）

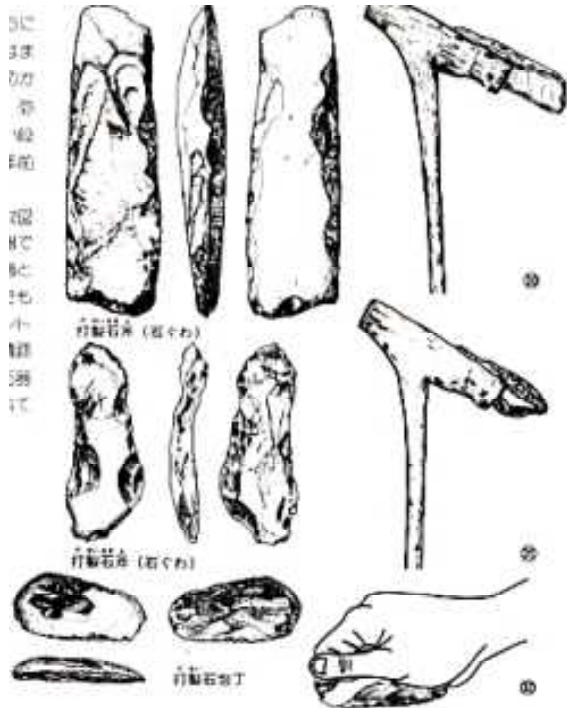
残念ながら、東大和市内では、現在のところ、弥生時代の遺跡が発見されていません。東大和市の狭山丘陵から南に広がる台地には、水の関係から、水田耕作ができなかったと考えられます。空堀川の縁に多少の森林がある程度で、一面に茅の原ではなかったかと推定されます。そのため、原への進出は江戸時代まで待たなければならなかったようです。



所沢市に属する狭山丘陵の中の遺跡のイラストで、東大和市にある谷戸と同じような状況を表しています。丘陵の中の弥生遺跡からは、縄文時代に使われていた石器が一緒に出ることがあり、ことによると、縄文時代の影響が残っていたのかも知れません。(所沢市教育委員会「ぼくらの祖先達は日向遺跡編」p20-21)



東大和市でも、発見されることを期待したいものです。



### 所沢市日向遺跡の家と道具

所沢市教育委員会「ぼくらの祖先達は日向遺跡編」から引用

弥生時代の時代区分 普通、次のように分けられますが、様々な意見があります。

- 前期 紀元前3～前2世紀
- 中期 紀元前1～後1世紀
- 後期 紀元後2～後3世紀

### 古墳時代

弥生時代に生産性を高めた人々は、次ぎに古墳時代を生み出しました。

左は埼玉県行田市 丸墓山古墳、直径102メートルという日本一大

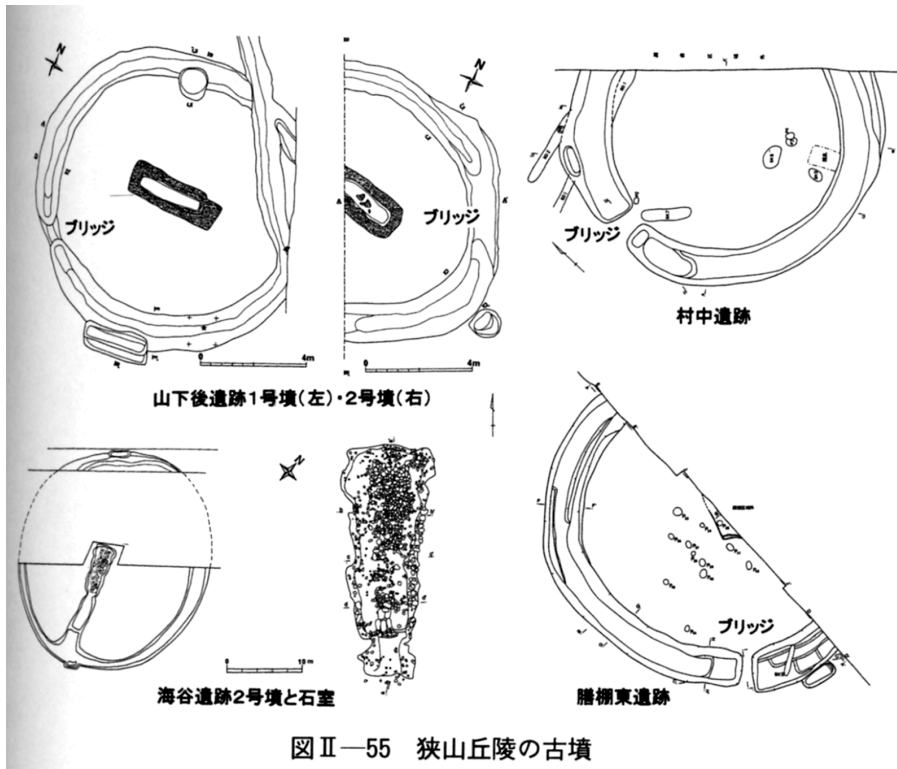


きい円墳。6世紀建造説があり、有名な辛亥銘鉄剣を出土した稻荷山古墳と接して造られています。



左は「吉見の百穴」と親しまれている横穴墓。現在222基が確認されています。家族墓で7世紀の古墳です。

狭山丘陵の古墳



図Ⅱ—55 狭山丘陵の古墳  
(武蔵村山市史上 p 2 2 4)

山下後遺跡 1号墳、2号墳

位置 所沢市柳瀬川  
中流左岸 下図7

1号墳 径12.6メートル

2号墳 径10.3メートル

7世紀前半～中葉

村中遺跡

位置 同上 標高80メートル  
径13.5メートル

6世紀後半～7世紀  
初頭

善棚東遺跡

位置 同上

径20メートル

7世紀初頭

海谷遺跡

位置 同上

径26メートル

7世紀中頃

狭山丘陵の古墳時代遺跡

東大和市域には古墳時代の遺物が表面採集としてありますが、発掘された遺跡はありません。



古墳

7	所沢市山口	山下後遺跡	円墳	2基	7世紀中葉
	所沢市柳瀬	滝之城横穴墓群		7基	7世紀中葉
9	所沢市北秋津	北秋津横穴墓群		1基	7世紀中葉

集落、住居跡

1	日向北遺跡	かまど跡	鬼高期	東村山市多摩湖町
2	吉祥山遺跡	火災住居址と生活跡	鬼高期	武蔵村山市中藤

3	後が谷戸遺跡	流路、溝 (木製品土器片)	武蔵村山市岸
4	お伊勢山遺跡	住居址 1 4 軒 和泉、鬼高期	所沢市三ヶ島
5	日向遺跡	住居址 2 4 軒 鬼高期	所沢市三ヶ島
6	高峰遺跡	住居址 3 3 軒 和泉、鬼高期	所沢市北野
6	野竹遺跡	住居址 9 軒 鬼高期	所沢市北野

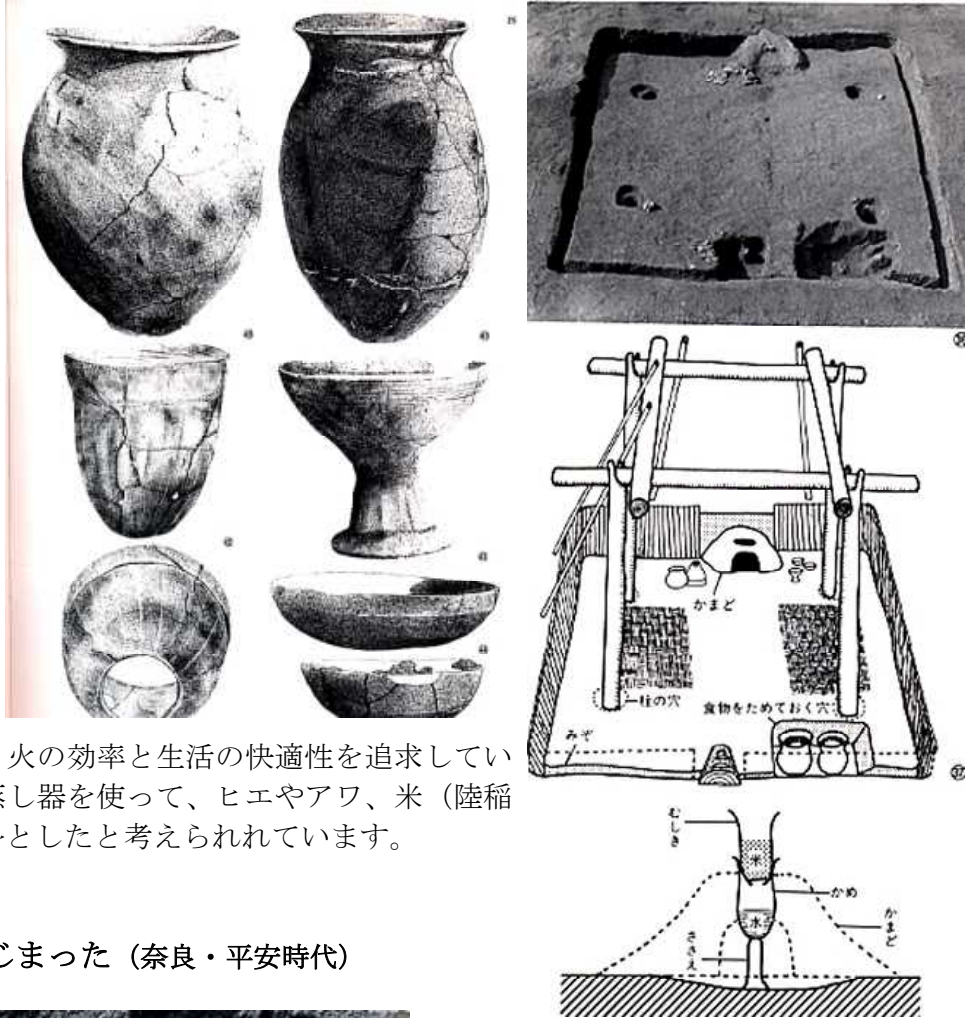
### 古墳時代の時代区分

時期区分	土師器の編年	年
前期 4世紀	五領式 (埼玉県)	東松山市 五領遺跡)
中期 5世紀	和泉式 (東京都)	狛江市 和泉遺跡)
後期 6～7世紀	鬼高式 (千葉県)	市川市 鬼高遺跡)

右は所沢市三ヶ島の日向遺跡で発掘された住居址と土器。

4軒の住居跡が発見されています。丘陵の南斜面で、近くに川があり、畑をつくっていました。

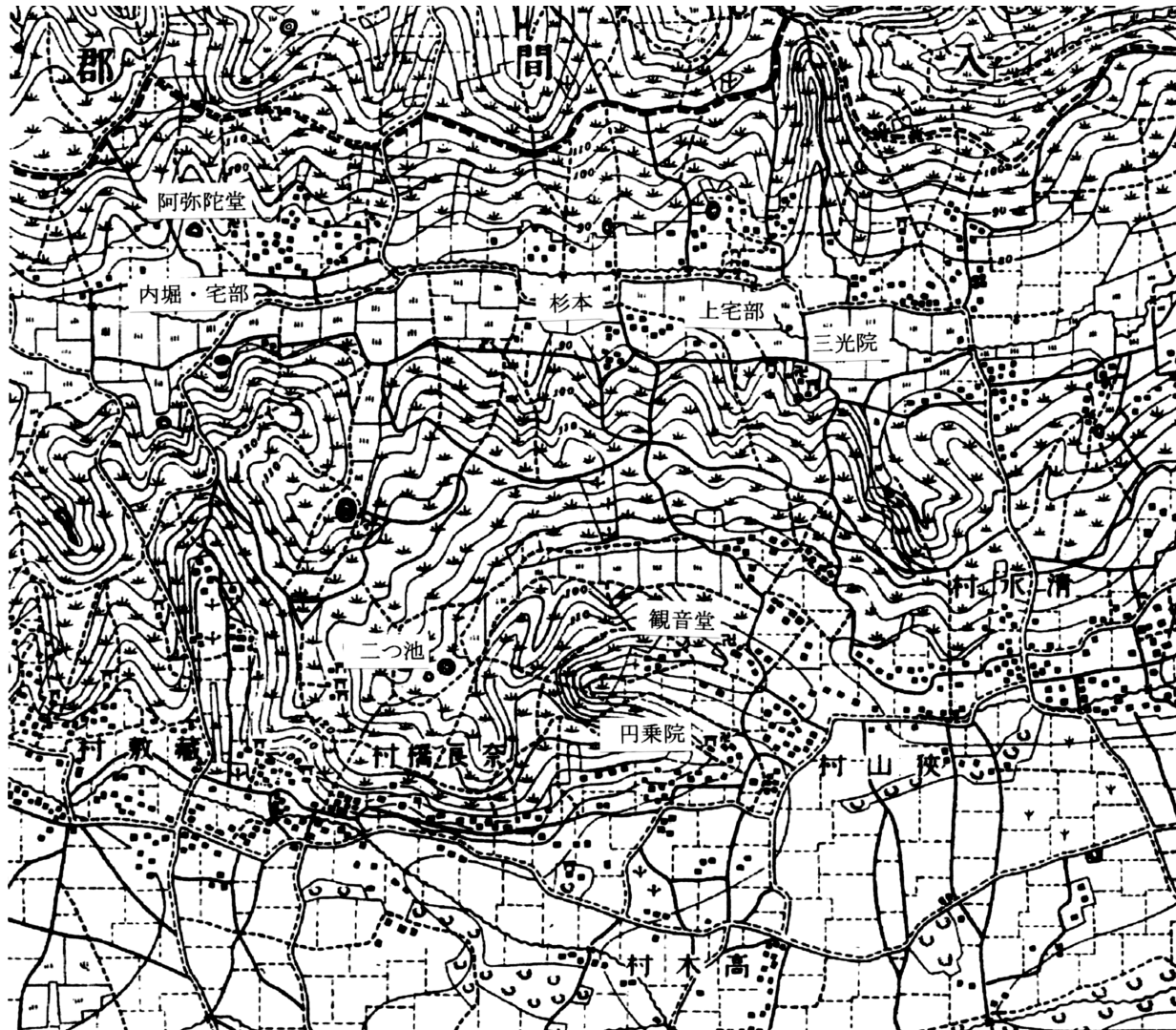
土器の形式から6世紀から7世紀頃のものと考えられています。住居は竪穴を掘って4本の柱で屋根を支え、多くは北側に竈を持ちます。この竈は外側に煙り出しをつけたもので、火の効率と生活の快適性を追求しています。竈では土器の蒸し器を使って、ヒエやアワ、米（陸稲を含む）を蒸して食料としたと考えられています。



### IV 谷戸の開発がはじまった (奈良・平安時代)



東大和市にも、奈良・平安時代になると人が住み始めました。それは谷戸の湧き水を利用する極めて小規模な生活でした。上の図は「廻田谷ツ遺跡」の住居址とツボです。精力的に分析が進められて、奈良・平安から鎌倉時代までの範囲が考えられています。



(明治15年迅速図)

地元の住民が「メグツタ田んぼ」と呼んだ「水田」を耕して生活の基盤にした最初の住民といえるかも知れません。

家は竪穴で、大きさは一辺が4尺弱、北側にカマドを付けています。これで東大和市内で発見された中では最大です。多摩湖第四遺跡（貯水池の中）の家は一辺が2尺です。

上ノ台遺跡は清水神社の南に位置します。一辺3尺4寸で、平安時代前半のも

